

報告

愛知県立大学大学院学生自主企画 第5回国際文化研究科ポスター発表会

実行委員／愛知県立大学大学院国際文化研究科国際文化専攻博士後期課程
木戸志緒子

2022年12月22日(木)および2023年1月26日(木)～2月8日(水)に、本学大学院生から成る国際文化研究科ポスター発表会実行委員会主催、多文化共生研究所協力により、「第5回国際文化研究科ポスター発表会」が開催された。本発表会は2018年度に学生有志で開始されたもので、その趣旨は、分野を越えて討論や交流のできる場所を学内で創出し研究をさらに広い視点から捉え直すことである。

昨年度は、Covid19の感染拡大の影響で、学内展示とオンライン展示が同時開催され、口頭発表は対面で実施された。本年は、新型コロナ感染予防対策の基準が緩和されたためオンライン展示は実施せず、口頭発表と学内展示が行われた。昨年と同様に、国際文化特殊演習bクラス(以下、合同ゼミb)の後期の講義と連動し、ポスターの作成、教員による指導、ピアラーニングなどが行われた。具体的には、10月27日(木)、11月10日(木)、11月24日(木)に4～5名ずつ試作したポスターに沿って7分間の発表を行い、質疑を経てさらに内容を修正しバージョンアップしたものを完成させた。その後、A0サイズに印刷したものをフレームに入れ、準備を整えた。

口頭発表は2022年12月22日(木)に18時30分から20時までH309にて、普段のオンライン講義とは異なり、対面で行われた。一部の履修生は仕事などの理由でやむを得ず欠席したが、14名がポスターを提出し学会のポスター発表を模して各自ポスターの前に立って説明をした後、観覧者の質問に答え合評会が実施された。

また、2023年1月26日(木)～2月8日(水)H棟地下ロビーの学内展示では、さらに修士論文を提出した1名および他大学在学中の国際文化研究科OG1名が加わり、計16名のポスターが展示された。昨年度は7名の参加であり、今年度は過去最多の参加者数となった。

以下に学内展示の発表者の氏名、所属、タイトルを示す(順不同)。

入倉 眞佐子(国際文化専攻 コミュニティ通訳学コース M1)

「地方自治体における『一元的相談窓口』の開設に伴う相談通訳者の役割の変化」

浦部 来羽(国際文化専攻 M1)

「文化的アイデンティティとレジリエンス」

向 娥(国際文化専攻 コミュニティ通訳学コース M1)

「蘇雪林『棘心』の中の母娘関係」

加藤 拓由(国際文化専攻 M1)

「小中学校外国語科における言語教育政策の検証」

鈴木 明海(国際文化専攻 M1)

「カタルーニャ・アイデンティティと Els Segadors[刈り取り人たち]」

寺田 葉菜(国際文化専攻 M1)

「台湾における外国籍住民への言語支援からみる今後の課題」

猪又 菜由実(国際文化専攻 コミュニティ通訳学コース M1)

「日本語非母語話者であるコミュニティ通訳者のオーラル・ヒストリー
ーコミュニケーション能力習得過程に焦点を当てて」

山本 小枝子(国際文化専攻 地域社会研究 M2)

「日本の英語教育に対する英語圏国家の文化外交政策の影響
ーブリティッシュ・カウンシルの活動を通して」

朴 燕(国際文化専攻 コミュニティ通訳学コース M1)

「対人支援場面から見た技能実習生の支援について
ーどのような支援が必要なのか」

島田 和浩(国際文化専攻 M2)

「know クラスの動詞補文の意味と構造」

渡邊 美彩(国際文化専攻 コミュニティ通訳学コース M1)

「オーストラリアのコミュニティ通訳システムについて
ービクトリア州政府の TP(Translation Policy)に着目して」

河村 留利(国際文化専攻 M1)

「日本におけるブラジル新宗教ウンバンダの発展
ー岐阜県土岐市ウンバンダグループでの参与観察から」

塚本 大地(国際文化専攻 コミュニティ通訳学コース M1)

「外国人児童を対象とした絵本の読み聞かせによる日本語指導」

伊藤 クリスティーナ(国際文化専攻 コミュニティ通訳学コース M1)

「コミュニティ通訳を介したやりとり場面のコミュニケーションエラーを探る
ー非漢字圏母語話者に焦点をあてて」

馬場 由美子(国際文化専攻 M2 修士論文)

「ウルグアイの“Comunidad Japonesa”にみる「日系社会」の一形態」

岡崎 雅子(南山大学大学院研修生, 愛知県立大学国際文化研究科 OG)

「アステカ人はいかに戦ったか
ー古文書から読み解く戦争の諸相」

2023年1月26日(木)~2月8日(水)の学内展示では、関心をもったポスターにシールを貼ってもらい観覧者の反応を確認した結果、観覧者は推定 51 名であった(「いいね」シール参考)。

実行委員より

口頭発表では、持ち時間の区切り方、仕事などで対面の講義に参加するのが難しい学生への対処など課題は残ったが、普段はオンライン講義で直接会えない大学院生が集い、先生方から対面でご指導いただけることの意義を参加者の皆さんに感じていただけたと思う。学内展示の観覧者が昨年より少なかったのは開催時期が学年末試験の時期と重なったためである。

謝辞

本発表会の開催にご協力いただいた多文化共生研究所、学務課、「国際文化特殊演習 b」クラス、観覧者ほか、関係者の皆様に深く感謝致します。



写真 1. 2022 年 12 月 22 日口頭発表会 実行委員撮影(情報保護のため加工済)

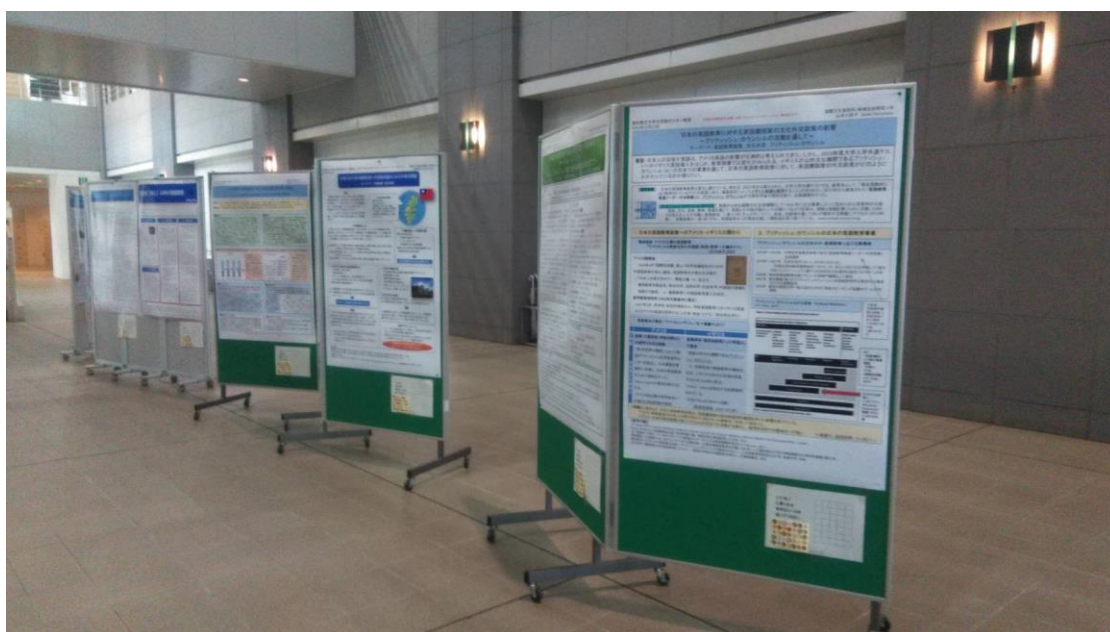


写真 2. 2023 年 1 月 26 日学内展示 実行委員撮影